

平成29年度	⑤H. 29. 11. 22 横浜市漁協金沢漁港でコンブ種子無料配布, 養殖開始 2回/月コンブモニタリング調査実施(H. 29. 11. 28~)	20m×20mを2冊設置	(H28年度に引続き)金沢八景島ジェットコースター下に20m×20mを2箇所の養殖冊を設置して、コンブ計画養殖を開始 養殖海域にてコンブデータ計測
	⑥H. 29. 10. 07~09 横浜金沢観光協会主催「クラフトビール&グルメフェスタ」に出店	約3,000人/3日間	コンブ商品(クネルサンド、コンバット共に新商品)販売
	⑦H. 29. 10. 21のみ 「東京湾大感謝祭」に横浜市, 港湾空港技術研究所と共同ブースで出店	風雨の為に1日間のみ	ブルーカーボン事業として横浜市・港湾空港技術研究所と一体になって海藻類のCO ₂ 削減の仕組みをPR(於:赤れんがパーク)
	⑧H. 29. 12. 06 プラチナ構想ネットワークにて「ヨコハマブルーカーボンコンブプロジェクト」を発表	プラチナ構想ネットワーク 会員 30名	横浜市金沢漁港でのコンブ計画養殖について説明 環境省幹部より賛辞受ける
	⑨H. 29. 12. 09 藤沢市片瀬江ノ島「海藻シンポジウム」参画	約200家族	
	⑩H. 29. 12. 14 パタゴニア環境基金受託	米国同社より称賛	ワカメ、コンブの種付けイベント 横浜市ブルーカーボン事業のPR
	⑪H. 30. 01. 17 第6回ブルーカーボン・シンポジウムin横浜で登壇	横浜市温対本部主催	「ヨコハマブルーカーボンコンブプロジェクト」が地球環境向上に寄与しているとの評価を受け、基金受託 横浜ブルーカーボン事業の一環としてのコンブ計画養殖を説明
	⑫H. 30. 02. 25 金沢漁港海産物フェスタに出店	約300人 来場	
	⑬H. 30. 02. 25 横浜給食普及協会主催「親子料理教室給食」でコンブをPR	30家族 参加	コンブ新商品“ハマクネル”(横濱元町霧笛楼監修のコラボ商品)販売 コンブ入り“よろこんぶうどん”新登場
	⑭H. 30. 03. 08~03. 30 コンブ浜揚げ作業	金沢漁港	
	⑮H. 30. 03. 03、03. 17、 横浜南部市場 土曜日(第1,3土曜日)に生コンブ展示, 販売	約100人/回	浜揚げ作業: 11回/3月中 実施 浜揚げ量 6.29ton 横浜ブルーカーボン事業の説明とPR

			生コンブも展示し、即売会開催
平成30年度	①H. 30. 04. 07、04. 14 横浜南部市場 土曜市に「ぶんこのこんぶ」正式発売	代表商品 で販売	「ぶんこのこんぶ」(生コンブ) の呼称もPR
	②H30. 05. 25～27 横浜セントラルフェスティバルY159にて“ハマクネル”発売	横浜元町 にて開催	横浜元町霧笛楼監修のコラボ商品 正式発売 (海事振興連盟と連携して海事・海洋産業の活性化を目的とした団体)
	③H30. 06. 02 横浜・鎌倉スローフード協会シンポジウムに参加	約50名 出席	「スローフィッシュ部会キックオフミーティング」を弊本社屋で開催
	④H30. 06. 16 日本技術士会神奈川県支部主催「神奈川県支部CPD(続研鑽)講座」で講演	約60名 出席	「海を想い、人と語らい、地球に感謝を！」と題して講演し、横浜市ブルーカーボン事業内容を説明、コンブ計画養殖を紹介長さ5mに成長した生のコンブを拵げて見せて 出席者全員に触って貰い、ヌルヌルした感触と香りを楽しんで貰った
	⑤H30. 08. 22～24 第20回インターナショナル・シーフードショーにスローフード協会会員として出店(販売活動は無)	34,000人 /3日間	生コンブの試食で 味と 横浜ブルーカーボン事業の“環境”をPR 外食チェーン店、食品工場、大手店舗、有名ホテル調理部門他にブルーカーボン事業としての生コンブをアピール
	⑥H30. 09. 08～09 元町クラフトマンシップ・ストリート フードフェアに参加	13,000人 /2日間	同フェアで霧笛楼「ハマクネル」(コンブ入り)販売 600食/2日間 完売(4時間で)
	⑦H30. 09. 06 “海洋立国懇話会”主催 「ブルーカーボンに関する報告」会場でコンブ入りハマクネル添え弁当を手配、配布	海運ビル (平河町) 懇話会関係者 50名	“海洋立国懇話会”(海事振興連盟(大手銀行、海運、商社、造船等参加)と連携して海事・海洋産業の活性化を目的とした団体)でのブルーカーボン関連講演会(港湾空港技術研究所 桑江グループ長講演)開催に寄与し、コンブ入りハマクネル添え弁当を手配、配布
	⑧H30. 10. 10 金沢区「2018年 金沢ブランド」商品として選出、登録	横浜金沢 観光協会 認定	2018年「金沢ブランド」商品として5品目“ぶんこのこんぶ”，“コンバット”，“ハマクネル”，“よろこんぶうどん”，“よろこんぶパスタ”が認定を受ける
	⑨H30. 09. 30 第9回 横浜シーサイドトライアスロン大会 で“よろこんぶうどん”無償提供	600食 無償 提供	金沢八景島シーパラダイスで開催された横浜シーサイドトライアスロン大会で、競技終了後に、コンブ入り(冷やし) “よろこんぶうどん”を無償で配布

平成30年度	⑩H30. 10. 20 第44回金沢まつり いきいきフェスタに参加	金沢区 海の公園	コンブ入り“コンバット”100袋 完売
	⑪H30. 10. 25 プラチナ大賞 最終審査で「きらり構想賞」受賞	総務省、 経済産業省他後援	プラチマ構想ネットワーク主催 総務省、経済産業省、全国知事会、全国市長会 他 後援、 参加53団体48テーマを審査、総務大臣賞・経産大臣賞他12賞 発表(弊社「きらり構想賞」受賞)
	⑫H30. 10. 29 環境大臣へヨコハマブルーカーボン・コンブプロジェクト概要説明	環境省への説明	原田環境大臣(当時)へ ヨコハマブルーカーボン・コンブプロジェクト概要説明し、プラチナ大賞(きらり構想賞 受賞)の報告
	⑬H30. 10. 31 横浜国立大学にて海藻バイオマスについて講演	約40名	Next Urban Labo「ヨコハマ海洋環境みらい都市研究室」にて横浜市、先生、学生、社会人対象に講演
	⑭H30. 11. 30 横浜市漁協金沢漁港でコンブ種子無料配布、養殖開始2回/月コンブモニタリング調査実施	20m×20mを2柵設置	(H29年度に引続き)金沢八景島ジェットコースター下に20m×20mを2箇所の養殖柵を設置して、コンブ計画養殖を開始 養殖海域にてコンブデータ計測
	⑮H30. 11. 12 NPO ガストロノミ協議会15周年記念「2018年アペリティフ in YOKOHAMA」開催	於：山手へレン記念教会	コンブ入り“YGハマクネル”提供 →ラグビーボール型で今秋ラグビー世界大会で記念発売予定 出席した横浜市副市長からも称賛
	⑯H30. 11. 17 横浜金沢観光協会主催 健康ウォーキング2018 参加	金沢区内イベント	「よろこんぶうどん」400食 完売
	⑰H30. 11. 12 テクノタワーホテルにて 金沢ブランド品と認定されたコンブ商品を販売開始	コンブ商品5品目	同ホテル1階“カフェ&マーケット CORE”にて
	⑱H30. 11. 03 江ノ島、 H30. 11. 05～06 和歌山 和歌浦湾、田辺市を訪問、コンブ計画養殖実施を勧める	5箇所の漁協を訪問	地域活性化、地産地消型産業、6次産業化、“ブルーカーボン”環境向上活動をPR
	⑲H31. 01. 11～13 「こでられね～秋田大集合！ in 横浜・八景島シーパラダイス」に出店	秋田県名産展	コンブ入りうどん販売(“なまはげ”君と共演) 秋田名物“きりたんぼ”との共演(コンブ入りうどんの上に“きりたんぼ”を乗せたもの) ※追加添付資料「活動報告2019年1月欄 写真」を参照。

	<p>②H31. 01. 16 よこはま朝食マルシェ(北仲マルシェ)で販売協力</p> <p>②H31. 01. 31～ コンブ計画養殖 モニタリング調査開始</p> <p>②H31. 02. 14 ヨコハマ・グッズ “横濱001”として コンブ商品認定される</p> <p>③H31. 02. 21 第7回ブルーカーボン・シンポジウムin横浜で紹介される(横浜大さん橋ホール)</p> <p>④H31. 03. 14～27 コンブ浜揚げ作業 学生・市民参加ボランティア活動で実施</p>	<p>「霧笛楼」主体 で出店</p> <p>1月～3 月計11回</p> <p>5品目</p> <p>温暖化対策統括本部主催</p> <p>金沢漁港 延べ89 名参加</p>	<p>コンブ入り“YGハマクネル”販売 霧笛楼とのコラボ商品</p> <p>モニタリング調査でコンブ長さ等データ収集</p> <p>「生コンブ、コンバット、ハマクネル、うどん、パスタ」が認定される</p> <p>シンポジウムの席上、弊社の活動を紹介</p> <p>コンブ懇話、コンブ軽昼食を挟んで 浜揚げ作業、コンブお土産付 コンブ浜揚げ作業 8回/3月中 浜揚げ量 6.38ton</p>
令和元年度	<p>①H31. 04. 18 コンブ収穫祭(里海フェスタ)開催</p> <p>②R01. 05. 26 能見台マルシェ(京浜急行電鉄主催)に出店</p> <p>③R01. 05. 31 ヨコハマSDGsデザインセンター主催 環境コンソーシアムに出席</p> <p>④R01. 06. 16 TRESSA YOKOHAMA 横浜フランス月間特別イベントに出店</p> <p>⑤R01. 07. 15～09. 29 横浜みなと博物館開館30周年記念企画展で展示</p> <p>⑥R01. 09. 21～09. 23</p>	<p>弊社関係者24名出席</p> <p>150名来場</p> <p>40社出席</p> <p>150人 来場</p> <p>横浜の海での取組 事業紹介</p>	<p>弊社(マリーナプラザ2階)で開催 コンブ料理でコンブ収穫を祝う</p> <p>ぶんこのこんぶ(生コンブ)、コンバット販売、会員募集</p> <p>弊社環境活動概要も説明 異分野企業とのコラボで異製品・異商品創出を企画 (シャンプー、リンス、ソープ原材料にコンブを利用、更にその容器までも“脱プラスチック化”、“脱化石燃料化”を目指して製品化を図る。)</p> <p>横浜ガストロノミ協議会、霧笛楼のヘルパーで“YGハマクネル”を販売</p> <p>横浜みなと博物館開館30周年記念企画展(7月15日～9月29日)にパネル、動画で 横浜の海での弊社環境活動状況を展示、紹介</p>

BRANCH 横浜南部市場オープン記念イベントに参加	5,000人 /3日間 来場	オープン記念イベント「ブランチマルシェ」に出店、ぶんこのこんぶ(生コンブ細切り)新販売
⑦R01. 10. 29 東京都市大学(横浜キャンパス)訪問	教授陣への挨拶・説明	横浜市ブルーカーボン事業を説明、コンブ計画養殖を紹介 コンブ養殖作業へのボランティア活動協力を依頼 学食関係者へのコンブ商品をPR、メニューへの採用を依頼
⑧R01. 11. 23 金沢ブランド展示会	金沢地区センター	「金沢ブランド」認定会社が認定商品を展示
⑨R01. 12. 04 横浜市漁業協同組合金沢支所でコンブ種子無償配布	金沢漁港	平成30年度と同様に 25名漁師へ配布 横浜国立大学関係者見学
⑩R01. 12. 06 神奈川県海洋科学高等学校作業実習のアシスト実施	金沢漁港	神奈川県海洋科学高等学校2年次生のコンブ&ワカメ差込み作業実習のアシスト実施

3 地域との関わり

	活動・取組等の名称	詳細内容
自治会・町内会との関わり	—	—
学校との関わり	横浜商科大学/商大キャンパス バザール 東京都市大学(横浜キャンパス) 横浜国立大学 横浜市立大学、関東学院大学	八景島のコンブワークショップ(於：つるみキャンパス)等開催、試食用コンブ配布(H29. 5. 14) 教授陣に対し 横浜市ブルーカーボン事業を説明、今後 学生との情報交流を開始、コンブ計画養殖への理解度を深める(P6 ⑦に記載) 環境関連海藻バイオマスについて講演(P5 ⑬に記載) コンブ養殖(種子配布、差込み作業等)見学(P7 ⑨に記載) コンブ浜揚げ作業にボランティア活動で参加、実務体験(P6 ⑭に記載)
他の市民団体との関わり	横浜市市民活動支援センター ヨコハマ SDGs デザインセンター	今年からコンタクトし始め、異業種交流の窓口として利活用 同業種及び異業種交流し、“ブルーカーボン” 環境向上活動を謳い、地域活性化、地産地消型産業、6次産業化、等検討
企業等との関わり	アサヒビール	弊社活動趣旨に賛同、各種イベントでの協力(イベント参加推薦、清涼飲料他の無償提供、情報交流等)。

	<p>パタゴニア</p> <p>J T B</p> <p>なだ万</p> <p>横濱元町霧笛楼(鈴音)</p> <p>横浜金沢産業連絡協議会</p>	<p>横浜ブルーカーボン・コンブプロジェクト趣旨及び活動内容を日本同社、米国本社へ報告、称賛を受け、助成金を受領。コンブ養殖中、何度か日本同社関係者の現場訪問を受け、弊社環境活動をフォロー、バックアップ。</p> <p>JTB 営業企画事業親子参加型「地球生き生きプロジェクト」の一環として藤沢市、江ノ島漁協と協力し、コンブの種子差込み作業と浜揚げ作業をお祭イベントとして開催。弊社も種子の提供、作業手伝い、コンブ商品等提供、イベント会場で横浜ブルーカーボン事業をPR。</p> <p>H28.3.20 豪華客船「クィーンエリザベス」横浜港大さん橋への寄港時、乗客に「なだ万」料理長によって作られた弊社コンブ入り“味噌汁”がふるまわれ(NHK ニュースで放映)、これが縁で 同料理長創作のコンブ商品、新しいコンブ料理開発等指導を頂き、汐留店で一般顧客へ提供。</p> <p>“横浜マイスター”横濱元町霧笛楼 今平総料理長が考案した“ハマクネル”の一品にコンブを練り込み、発売。各種イベントでは 即完売になる程の人気商品。弊社の看板商品。</p> <p>1,000社を超える産業団地会社群の中から 地産地消の為、コンブの食品加工会社を紹介して貰い、次に開発中の化学工場群からの医薬品、化粧品等の工場を紹介して貰うべく交渉中。</p>
行政との 関わり	<p>横浜市温暖化対策統括本部</p> <p>1. 横浜ブルーカーボン事業</p> <p>2. 横浜ブルーカーボン・オフセットマーク 利用許諾申請</p> <p>港湾空港技術研究所</p> <p>3. 金沢湾コンブ モニタリング調査</p>	<p>金沢漁港でのコンブ計画養殖</p> <p>コンブ関連製品9品目に許諾が下り、オフセットマークを貼付した商品を販売</p> <p>港湾空港技術研究所沿岸環境研究グループより業務委託有り (H29年度 金沢湾における海藻類現存量測定補助業務) (H30年度 金沢湾における海藻類の養殖量測定補助業務)</p>
その他、 環境以外 の分野と の関わり	<p>ハマの市場を楽しもう！ (第一、第三土曜 AM 開催)</p> <p>第一、第三土曜まつり</p>	<p>横浜市中央卸売市場本場 魚河岸処 出店 (H28～H30年)</p> <p>横浜南部市場 出店 (H30年～)</p>

4 団体の発足経緯／活動を始めたきっかけ、動機

※立ち上げた主体、どのようにして活動に携わる人が増えてきたのか等も合わせ、具体的に記入してください。

※個人の方は、活動を始めたきっかけについて記入してください。

日本は海に囲まれていながら 海の環境の悪化が深刻な問題となっており、日本沿岸部の多くの場所では20年近く前から“磯焼け(磯に海藻がなくなってしまう)”という現象が其処彼処で始まっており、深刻な状態となっています。

そんな状況下で 2016年春、国立研究開発法人 水産研究・教育機構(FRA)発行 FRA NEWS Vol.40(2014年12月)の特集号に「コンブのCO₂吸収量は 森林のCO₂吸収量の**4～5倍**(ha 当たり)」との記載があり(添付資料ご参

照)、コンブの計画養殖をすることによって 沿岸部の環境を整え、向上させ、更には CO₂を削減し、O₂を作り出し、温暖化対策にも寄与できる活動を日本全国に広めようと思いついたのが始まりでした。

奇しくも その時、横浜市では 横浜グリーンカーボン事業を推進中で、大消費地の“横浜市”を舞台とすることで、“地産地消事業”として成り立ち、しかも 横浜市からのPRのお蔭で 漁師全員が“ブルーカーボン事業”を知っており、コンブ養殖計画を横浜市漁業協同組合に持ち掛けても その意義を理解してくれ、比較的容易にその実施を受け入れてくれました。

また この活動は“コンブを売ること”が目的ではなく、“環境浄化に寄与する”という観点で実施しており、特に 子供たちや学生、一般市民にも理解してもらおうべく イベントや講演会を開催し、折に触れ、“環境”の大事さを肌で感じてもらうべく「生のコンブ」を持ち出して、触って貰ってます。併せて 生コンブという新しい“食材域”なので、その新料理方法なども披露しながら「食育」にも力を入れております。

従って 弊社メンバーも多岐に亘る陣容で、料理にも興味を持っていて、“環境”というキーワードで集まったという由来を持つ構成メンバーです。

5 今までの活動

活動の目標・ねらいに対する成果

「よろこんぶプロジェクト」

子供たちを始め市民の皆さんと共に、種付や収穫、箱詰めなどの仕事をボランティアでお手伝いして頂きながら、海の環境について学んで頂けるワークショップを実施。

横浜の海の畑にも栄養素が多く、4~5ヶ月間で4~5mにも育つコンブはその参加者を圧倒、魅了してきました。

北海道、東北地方を除いて 半年間しか生育できないという制限もあり、海環境の生態系を壊す恐れもありません。

また、北海道や東北地方の産物と思われていますが、水温は16度~20度以下であれば 全国的にも育成は可能で、連携し始めている自治体は6団体に増え、潜在的には40ヶ所に及んでいます。大都市横浜での本活動は全国から着目され始めています。

生物多様性に関する取組（生物多様性特別賞の選考の参考とします）

※取組の中で、生物多様性に関するものを記入してください。

（1ページ「生物多様性特別賞について」に事例を記載しています。）

コンブ計画養殖については 弊社としては 下記のような目的でその効果を期待し、努力しております。

・ コンブが成育すると 海中のCO₂を吸収し(温暖化対策に寄与)、O₂を出すことにより(コンブ周辺は通常海域の3倍の酸素量が溶存していることが判明：平成30年度 港湾空港技術研究所調査結果) 周辺海域の生き物(プランクトンや魚介類)の生息環境が著しく向上し、大小様々な生き物が集まり、活発な食物連鎖が行われます。

そして その結果 磯焼けや貧酸素状態による赤潮の発生を防ぎ、栄養塩不足の磯などの環境の改善において 少しでもお役に立ちたいと思っております。

・ 浜揚げされたコンブは “新食材(乾燥コンブではなく、生コンブ)”として、大都市“横浜”での和食だけでなく、仏料理や伊料理、中華料理等あらゆる料理に使われる可能性を持ち、現在、各界シェフ、料理関係者へ試食用コンブを配布中です。正に 地産地消型商品として期待しております。

また 食材だけではなく健康食品、美容品、医療品、工業製品、ペットフード、飼料、肥料、等への利活用も可能になります。しかも コンブが浜揚げされる金沢漁港には金沢工業団地が隣接し、この工業団地内での食品加工化は食品団地企業と現在、試作試験段階であります。

近い将来には「脱プラスチック原料」として工業品(化粧品、医薬品、繊維、飼料・肥料化等)の原材料にもすべく 化学薬品等各分野への展開、開拓、及び各商品とのコラボを地産地消型商品として企画中です。

- ・ 弊社の大きな目的の一つにもなっているのは 今後も引き続き 子供たちや学生を含めた市民の方々に対し、コンブに関わるイベントや講習会等を何回か開催して、出来るだけ沢山の人達にコンブを触って貰い、“環境の大切さ”を体感して貰いたいと思っております。

(コンブ浜揚げ作業を手伝って貰ったり、タッチできるコンブの展示を催し、コンブ観察・勉強会、コンブ研究者による講習会等にも出席、参加して貰いたいと思います。)

- ・ 日本のあらゆる場所で 海の環境の悪化は深刻で、弊社のコンブ養殖事例に対して 各地から問合せや相談がきており、弊社の試みがお役に立てれば と情報交換をしています。

弊社の養殖方法は 既に「標準化」をして「マニュアル化」して、横浜漁協にて実践して貰っていますので、“横浜発”の“横浜方式” 養殖を各地で実践して貰うことで、環境浄化に寄与していくことを願っています。

今年も 数箇所(和歌山、島根、愛媛、三重、石川の各県)の漁協からのリクエストに応じて 一部の漁協へコンブ種子を実験用、試験的に送付しております。

6 今後の活動方針

※次年度以降の目標や、活動継続のためにどう引き継いでいくのかも含めて具体的に記入してください。

今まで コンブを養殖してきましたが、弊社にとって全て初めて体験することばかりで、実務に追われ、試行錯誤しながらの毎日で 当初描いてきた理想の絵姿にするには まだまだ程遠いと思っております。

今後は 前項5に記載した活動の中でも 特に下記の項目について 精力的に強化して進めていきたい。

1. コンブ養殖域は 現在、僅かに 20m×20mの柵が 二柵しかありませんが、もっと広い海域でコンブ養殖を実施したい。
2. 子供たちを含めた市民の方々と “環境や海の大切さ”を感じて貰える交流会、勉強会、講習会を定期的開催し、同じ思いの方々、特に学生や若い世代の方々と “環境”をテーマに大いに語り、行動したい。
3. 日本全国の漁業協同組合に対して 横浜市での実績を基に(現在までに本養殖の標準化、マニュアル化を既に進めております。) コンブ計画養殖を全国的に広める為に、情報交流会、説明会を行い、各地での活性化、温暖化対策・環境浄化、地産地消、6次産業化事業として進めたい。
4. コンブの利活用方法として 食用、料理法の幅広い展開だけでなく、健康医薬品、化粧品、脱プラスチック代用品、飼料、肥料、繊維などの新分野での開拓に努めていきたい。

7 審査にあたり、最も注目してもらいたい取組、PRポイント

※最も注目してもらいたい/評価してもらいたい取組や、これまでの項目に当てはまらないPRポイントについて具体的に記入してください。

「よろこんぶプロジェクト」の55のメリットや特徴

- 1 環境貢献
- 2 温暖化対策
- 3 漁業者の閑散期の副収入 (育成中は手のかからない事業)
- 4 多くの世代が関われる仕事
- 5 コンブは他の海藻に比べて、成長が早い
- 6 栄養価の面でも海洋ミネラルが豊富
- 7 素材食品としてのバリエーション豊か
- 8 収穫されたコンブはまずは食品として活用。 廃棄するところが全く無く、
- 9 健食、
- 10 医薬品、
- 11 化粧品、
- 12 飼料、
- 13 肥料そして、
- 14 天然繊維として技術も整ってきました。
- 15 環境教育や
- 16 食育の面でも
- 17 また介護食の面でも必要とされています。

¹⁸ 種コンブの仕込みは子供達でもできるので、¹⁹ 体験型の授業には適しています。²⁰ 可能であれば生育途上も観察して、²¹ 収穫時は食材として堪能しながら、²² シンポジウムなどを行なっています。

²³ 水揚げしたコンブは冷凍され保管されるものと ²⁴ 直ちに加工されるものと分けられる。²⁵ 一次加工は基本的には全て熱処理加工しますが、全く新たな観点での ²⁶ 新システム(他の処理方法(試験中)等)を考案中です。

3年間の ²⁷ 海洋都市横浜で新しい ²⁸ 環境循環型のプロジェクトが ²⁹ 生物の多様性の面でもその基盤となる。³⁰ 陸上との端境の海域をより環境を良い状態にするには最適な事業である。³¹ 小型のサップ舟でも仕事ができる。

³² ブルーカーボン事業としての拡張性を考える時近い将来、³³ 膨大な量のコンブが得られる事となり、³⁴ 多次元なステークホルダーの開拓も同時に行った事で ³⁵ 全国展開を可能にした。

横浜市を始め ³⁶ 行政との関係の中で漁業者と計画養殖に取り組みますが、³⁷ 明確な販路も確立しました。ここ3年で ³⁸ その販路開拓の一部は稼働し始めました。³⁹ 地域性を重んじ、地産地消や ⁴⁰ 雇用を生むことが考えられます。

しかし、⁴¹ 異業種(中小企業を含む)とのコラボ、取引も同時に可能とします。

⁴² 生コンブでの新たな食品は ⁴³ 生コンブそのものもあれば、⁴⁴ 食材の裏舞台で活躍できる素材として供給できます。

コンブは飼料として鶏・牛・豚に、肥料としても ⁴⁵ 横浜野菜等の裏方になりはじめています。

⁴⁶ 里海の再生の騎手となり、⁴⁷ 日本の海のリネラルがカタチを変えて、⁴⁸ 海を越えて多くの子供たち含む2700万人のヨード欠乏症の人たちに救いとなることでしょうか！ ⁴⁹ まさに古典的ではあるものの最新の環境循環型プロジェクトとなる事でしょう！

⁵⁰ そして、多くの人たちの笑顔を観ることができるでしょう！

最後に ⁵¹ 磯焼けの解消や⁵² 漁場の回復、⁵³ 海水浄化 等に大いに貢献、海の中に ⁵⁴ 酸素工場を作ることができ、日本の国土は狭いですが、コンブの多様性は ⁵⁵ 排他的経済水域(世界6位)活用の先駆け となるかも知れません。

ヨコハマ SDGs デザインセンターと行うテーマ

No. 12: つくる責任つかう責任、No. 13: 地球温暖化対策、No. 14: 海の豊かさ を守ろう

このテーマに答えを出せる商品を企画して、海の再生と市民の健康を提案してきました。

コンブはヘルシーでありながら、ビタミンCやヨウ素は成長盛りの子供には欠かせない。

私たちは 世界の海をきれいにするテーマを掲げ、地球の「生物生産力」の補い手になるよう尽力していきたいと考えております。一人でも参加できます、一人でも世界の海をきれいにできます。小さな子供たちの豊かな創造力も大いに助けになっていきます。



海草・海藻 意外と知られていない水中の植物

二酸化炭素が「グリーンカーボン」と呼ばれることに対応して名付けられました。気候変動に関する政府間パネル（IPCC）第5次評価報告書（2013年）第1作業部会報告書「気候変動2013：自然科学的根拠」によると、産業革命以来1750年から2011年までの261年間に、人類が産業活動などでつくり出した二酸化炭素の総量は、5550億トンと見積もられています。そのうち2400億トンは大気中に残ったままで、1600億トンが森林などの陸上の生態系に取り込まれ、1550億トンが海の生態系に取り込まれていると考えられています。海には、総排出量の約3割が取り込まれていることとなります。

海の植物の寿命は、陸上の木などに比べて長くはありません。そのため、あまり大きくならず、取り込むことのできる炭素の量にも限りがあります。しかし、枯れた植物にも炭素が含まれているため、それらが分解されずに海底の泥の中に留まることで、海に炭素が蓄えられています。

地球温暖化の原因のひとつに、温室効果ガスがあります。この温室効果ガスの大部分を占めるものが二酸化炭素（CO₂）です。二酸化炭素を出さないようにするための方法が世界規模で議論されています。

植物は、光合成で二酸化炭素を使い、炭素を含む有機物をつくるので、地球温暖化を防ぐのに一役かっています。海中の植物である海草・海藻も、同じように光合成で二酸化炭素を使っています。

国際的な取り組みの中で2009年に発表された国連環境計画報告書で、海の生態系に吸収される炭素（二酸化炭素を、ブルーカーボンと呼ぶことになりました。これは、森などの陸の生態系に吸収される

海草・海藻も二酸化炭素を吸収



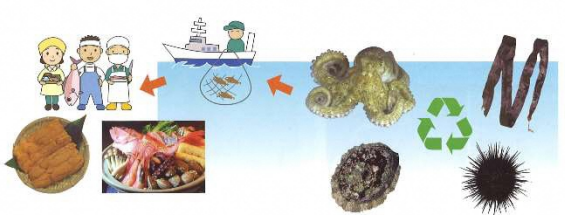
海草・海藻 意外と知られていない水中の植物



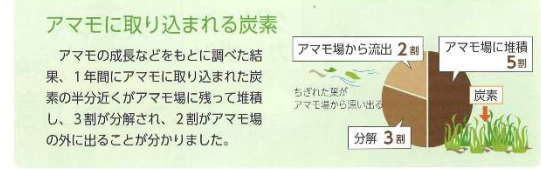
藻場の機能 二酸化炭素の吸収

1年間に吸収する二酸化炭素の量を面積1ヘクタール（100メートル×100メートル）で比較すると、左に示すような結果が得られました。海草・海藻は成長が早く、短い間にたくさん二酸化炭素を取り込んで体の組織を形作るため、吸収量が多くなることが分かりました。

藻場をつくる大型の褐藻類が成長するために取り込んだ炭素などの物質は、ほかの生物の餌として利用されるなどして海の生態系の中で循環し、漁業にも大きく貢献しています



これらの成果は、水産庁地球温暖化対策推進費の委託事業「藻場・干潟の炭素吸収源評価と吸収能力向上技術の開発」によるものです



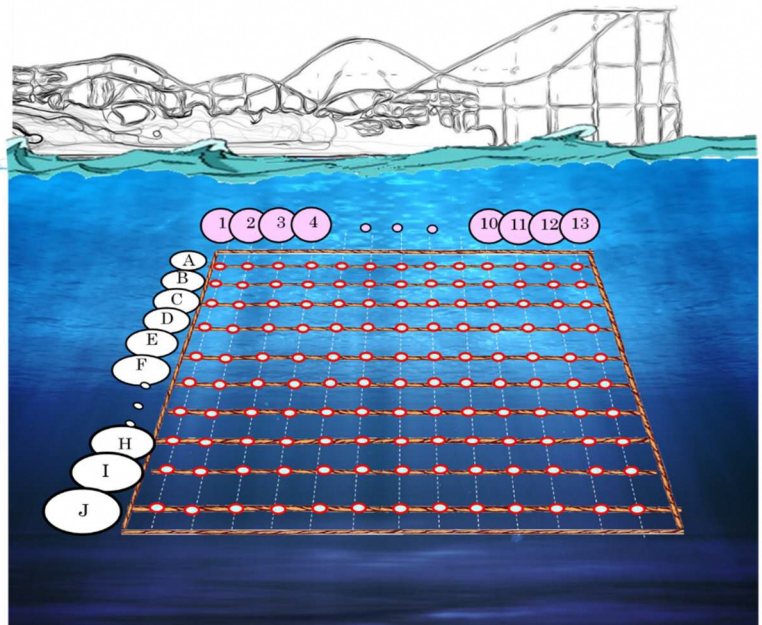
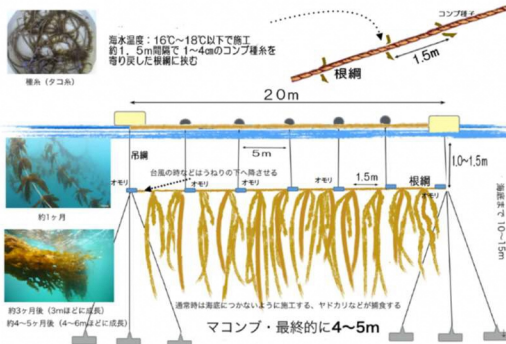
アマモ場の堆積物

アマモ場に堆積した炭素には、二酸化炭素としてアマモに取り込まれたものや、植物プランクトンに取り込まれたもの、ほかの海藻に取り込まれてアマモ場に流れ着いたものなどがあります。

それらを調べた結果、数千年前からの炭素が1ヘクタール当たり約100キロもたまっていて、その半分の約50キロがアマモに由来する炭素であることが分かりました。

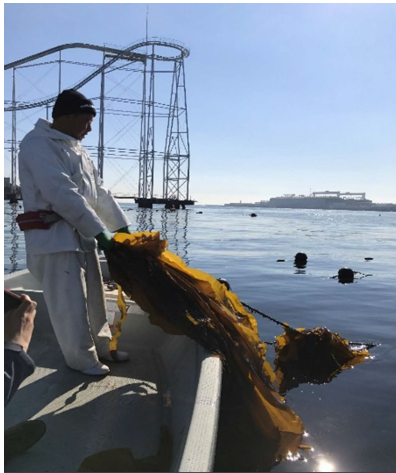


・コンブ養殖の施工方法の一つ



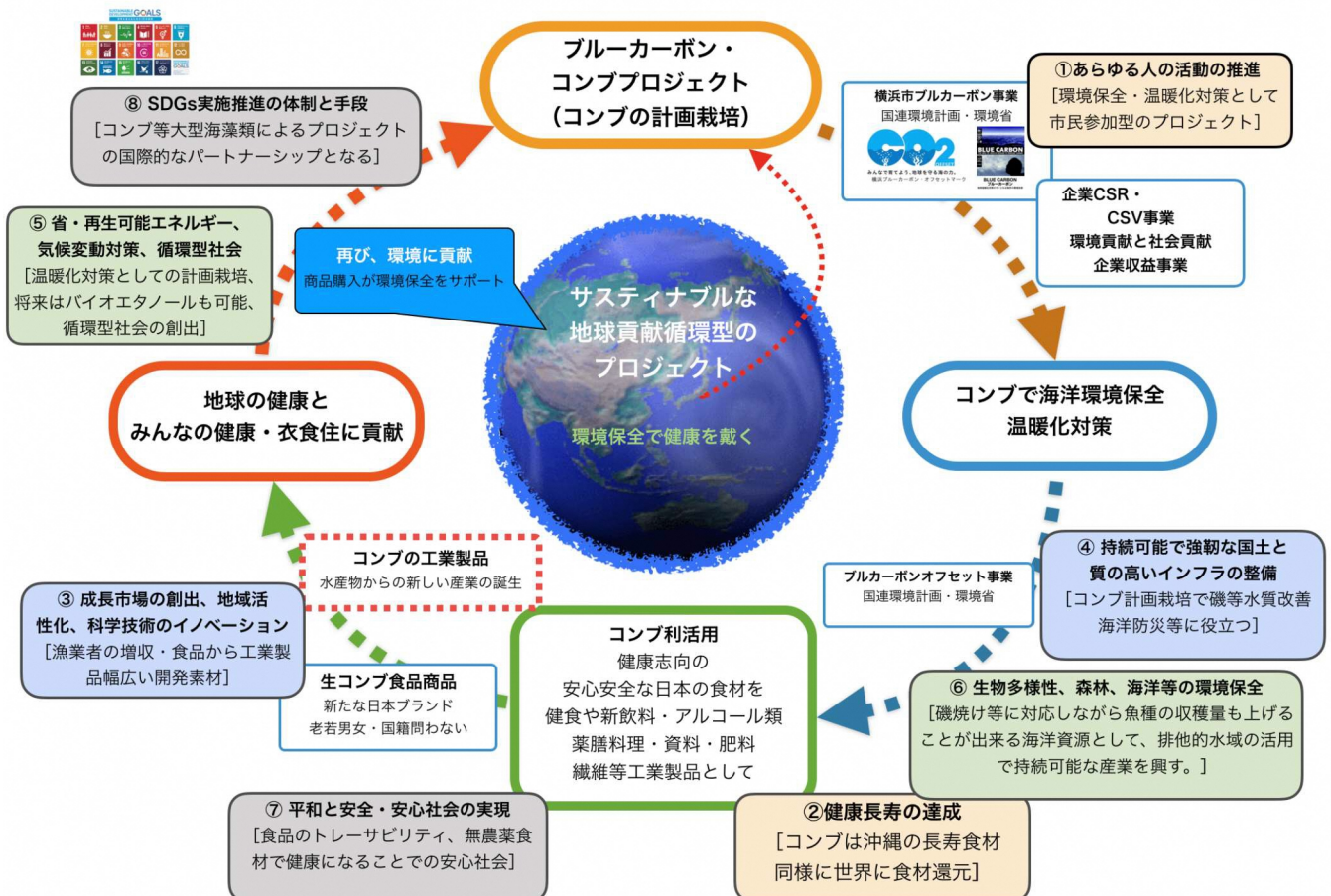
横浜金沢区でのコンブの成長

0.5 m の種コンブ（2センチほど）は たった数ヶ月で5 mにも成長し、30kgほどの株と成ります。





ブルーカーボンコンブ・プロジェクトは環境循環型のサステイナブルな最先端の事業



一般社団法人 里海イニシアティブ 活動報告(2018年2月～2019年9月)

一般社団法人 里海イニシアティブ

今までの活動内容

	コンブ計画養殖活動	コンブ利用商品開発活動	イベント支援活動	公的出来事
2018年 2月	<p>創立一周年記念パーティをマリーナプラザ2階ホールにて開催</p>  		<p>金沢漁港海産物フェスタにて コンブの活用で商品化された『ハマクネル』、『ハマネサンド』デビュー、横濱元町 霧笛楼 今平総料理長監修、直接店頭に出て 大好評を博す</p> <p>横浜給食普及協会主催「親子料理教室給食」にてブルーカーボン・コンブ をアピール、試食に「よろこんぶうどん」を提供</p>	
3月	<p>横浜市漁業協同組合金沢支所漁師有志とコンブの浜揚げ作業実施 (浜揚げ総量: 6.29ton)</p>		<p>横浜南部市場 土曜市へ参加、生コンブを見せて、採れたて生のコンブを来場一般市民へアピール(3、4月実施)</p>	
2018年 4月			<p>横浜南部市場 土曜市にて「ぶんこのこんぶ」正式発売</p>	
5月			<p>横浜セントラルフェスティバルY159において元町 霧笛楼ブースにて『ハマクネル』販売</p>	

	コンブ計画養殖活動	コンブ利用商品開発活動	イベント支援活動	公的出来事
2018年 6月		横浜・鎌倉スローフード協会シンポジウム「スローフィッシュ部会キックオフミーティング」に参加、会員登録 (里海イニシアティブ本社屋で開催)		ブルーカーボン研究会 第2回講演会(主催 一般財団法人みなと総合研究財団/一般社団法人 港湾空港総合技術センター)公聴
7月		金沢区「2018年 金沢ブランド」商品として『ぶんこのこんぶ』、『コンバット』、『ハマクネル』、『よこんぶうどん』、『よるこんぶパスタ』を申請 (10月選出され、登録)		
8月			第20回インターナショナル・シーフードショーにスローフード協会会員として出店	
			元町クラフトマンシップ・ストリート フードフェア 霧笛楼販売「ハマクネル」(ブイヤベース味) 2日間600食 完売(たった4時間で)	海洋立国懇話会(海事振興連盟と連携して海事・海洋産業の活性化を目的とした団体)主催の「ブルーカーボンに関する報告」(港湾空港技術研究所 桑江グループ長講演)開催に参画寄与 ハマクネル入り弁当を手配
9月			第9回 横浜シーサイドトライアスロン大会で「よるこんぶうどん」600食 無償提供、好評のうち終了	
10月	プラチマ構想ネットワーク主催プラチナ大賞最終審査で「きらり構想賞」受賞(53団体48テーマを審査)		第44回金沢まつりいきいきフェスタに「コンバット」で参加	
	原田環境大臣へ ブルーカーボンコンブプロジェクト概要説明、プラチナ大賞(きらり構想賞受賞)の報告			

	コンブ計画養殖活動	コンブ利用商品開発活動	イベント支援活動	公的出来事
2018年 11月	横浜市漁業協同組合金沢支所でコンブ種子無償配布、昨年度と同様に養殖方法を統一、各漁師個々にコンブ種子差込み、植込み作業(11/31～12/上旬)	NPOガストロノミ協議会15周年記念「2018年アペリティフ in YOKOHAMA」が開催され、コンブ入り「YGハマクネル」として供され、好評を博す	金沢区観光協会主催 健康ウォーキング2018 参加 「よるこんぶ うどん」400食 完売	
12月	江ノ島、和歌山 和歌浦湾、田辺市、島根県 浜田市などコンブ計画養殖実験がスタート	 <p>ぶんこのこんぶ (コンブ入うどん)</p>	テクノタワーホテル1階“カフェ&マーケットCORE”にて金沢ブランド品として販売開始	
2019年 1月			ヨコハマ・グッズ横濱001としてコンブ商品5品目(生コンブ、コンバット、ハマクネル、うどん、パスタ)が認定される	「こでられね～秋田大集合！in横浜・八景島シーパラダイス」にコンブ入うどんで出店(“なまはげ”君と共演)
2月	コンブ計画養殖 モニタリング調査開始		よこはま朝食マルシェ(北仲マルシェ)でYGハマクネルの販売に協力	

	コンブ計画養殖活動	コンブ利用商品開発活動	イベント支援活動	公的出来事
3月	<p>学生・市民の皆さんによるボランティア活動でコンブの浜揚げが迅速で、効率よく作業 (浜揚げ総量: 6.38ton[3月5.73ton(柵内) +4月0.65ton(柵外)])</p> 			
2019年 4月	<p>コンブ収穫祭(里海フェスタ)をマリーナプラザ2階にて開催</p> 			
5月			<p>能見台マルシェ(京浜急行電鉄主催)に出店 ぶんこのこんぶ(生コンブ)、コンバット販売、 会員募集</p>	<p>ヨコハマSDGsデザインセンター 環境コンソーシアム出席、環境 活動概要を説明</p>
6月			<p>TRESSA YOKOHAMA 横浜フランス月間特別イベント 横浜ガストロノミ協議会のお手伝いで YG/ハ マクネルを販売</p>	 
7月			<p>横浜みなと博物館開館30周年記念企画展 (7月15日～9月29日)にパネル、動画で環境 活動状況を展示</p>	
8月				<p>ヨコハマSDGsデザインセンター パートナーシップ フォーラム聴 講</p>
9月			<p>BRANCH横浜南部市場 ランチマルシェに出店、ぶんこのこんぶ(生 コンブ細切り)新販売、好評を博す</p>	



なだ万 箱根 雅殿 (尾中調理長監修)
26年4月懐石より3品昆布使用
左上：小鍋仕立て
横浜産昆布 桜鯛のしゃぶしゃぶ
竹の子 湯葉 水菜 ワケギ 白ボン酢
右上：新筍 横浜産昆布旨煮
鯛の子 蒟 桜人参 木の芽
左下：銀の器
横浜産昆布と海月柑橘酢



コンブ館の“かるかん“(なだ万 作)



岩亀炊き込みコンブご飯



大賞 総務大臣賞

養父市
養父市の新たな挑戦！
国家戦略特区を活用した新たな
自家用有償旅客等運送事業「やぶくる」

大賞 経済産業大臣賞

株式会社シェルター
「木造都市づくり」への挑戦
—都市（まち）に森をつくる—

2018年6月4日～7月20日、全国の自治体会員、法人会員より取り組みを募集し、9月7日の審査委員会による二次審査にて14件の取り組みが選出されました。

10月25日イノホール(東京都千代田区)で開催された最終審査発表会では、各団体によるプレゼンテーションが行われ、大賞、総務大臣賞、経済産業大臣賞、他の各賞受賞が決定いたしました。

併せて受賞した自治体は、当会が制定する「プラチナシティ」に認定されました。

最終審査発表会・表彰式には、当会会員のみならず、来賓、一般参加者、メディア関係者等、多数の方々にご参加をいただき、盛会に終わることができました。

ご来賓、会員並びに関係者の皆さまには厚く御礼を申し上げますとともに、引き続き、「プラチナ社会」の実現に向けてご協力・ご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

第6回プラチナ大賞 最終審査結果

賞	受賞団体	タイトル
大賞 総務大臣賞	養父市	養父市の新たな挑戦！ 国家戦略特区を活用した新たな自家用有償旅客等運送事業「やぶくる」
大賞 経済産業大臣賞	株式会社シェルター	「木造都市づくり」への挑戦 —都市（まち）に森をつくる—
ライフデザイン賞	徳島県 美波町	美波町における 「ICT等を活用した地域課題解決による好循環なまちづくり」
新しい時代のインフラ賞	香川県	全国初！県域を対象とした水道広域化の取組み
事業革新賞	中国木材株式会社	低炭素・循環型社会実現のために林業再生を目指して —日向モデル(大型製材・加工と大型木質バイオマス発電の取組み)—
グッドスタート賞	岐阜市	デジタルネイティブ世代へのプログラミング教育 ～日本の周回遅れを取り戻す～
全員参加の地域づくり賞	高浜町 福井大学 たかま地域医療サポーター の会	“医住”から“移住”へ ～地域総出で支える安心医療のまちづくり・10年の軌跡～
<u>きらり構想賞</u>	<u>一般社団法人里海イニシアティブ</u> 吉澤保幸氏（プラチナ構想ネットワーク特別会員）	<u>里海よるこんぶプロジェクト</u>
グッドスタート賞	株式会社リクルート	(株)リクルートと北九州市の連携協定による女性就業支援 ～一人ひとりが自分らしく働ける社会の実現に向けて～
パートナーシップ賞	株式会社三井住友銀行 株式会社SMBC信託銀行 一般社団法人社会的投資推進財団	ソーシャル・インパクト・ボンド（SIB）を活用した社会的課題解決 ～糖尿病性腎症重症化予防事業に対する取り組み～
次世代育成賞	荒川区	「読書を楽しむまち・あらかわ」の展開
次世代育成賞	埼玉県	子供たちの「伸び」を見つめ、「やる気」を引き出す 埼玉県学力・学習状況調査
地域パートナーシップ賞	会津地域森林資源活用事業推進協議会 会津森林活用機構株式会社 住友林業株式会社 株式会社アルファフォーラム	13市町村広域連携による森林資源フル活用事業
地域パートナーシップ賞	東日本旅客鉄道株式会社秋田支社	ノーザンステーションゲート秋田プロジェクト

(順不同)